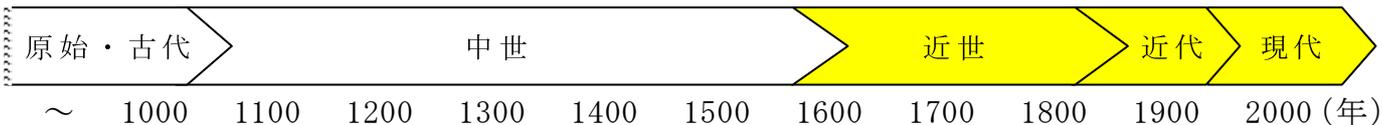


# 10 日本の伝統産業とひろしま

## くまのふで ～熊野筆～



### 1 熊野筆とはどのようなものでしょうか？

広島県安芸郡熊野町は、熊野筆で知られた筆の一大産地で、全国の筆の生産量の約85%を占めており、「筆の都」と呼ばれています。人口約25,000人の町で、筆生産に従事する人は約2,600人です。これは町民の約10%に当たります。



熊野筆（熊野町提供）

熊野筆は、伝統的技術を引き継ぎながらも、需要の変化に合わせた新技術、新製品の開発を進めるなど、職人の努力により、熊野から世界にはばたく企業も現れています。

一本の筆は、墨を含ませる穂首部分と手に持つ軸部分に分けられます。現在では、穂首の毛の原料となる動物の毛は中国やカナダなどから輸入しています。また、軸の材料となる竹や木は、岡山県などから仕入れたり、中国や韓国などから輸入したりしています。

このように、熊野筆は原材料がまったくとれない状況で発展してきたことが特徴です。筆づくりは、穂首づくり工程、軸づくり工程等に分かれますが、各工程は職人がすべて手作業で行います。このことが評価されて、1975（昭和50）年、熊野筆は広島県で初めて国から伝統的工芸品の指定を受けました。この伝統的工芸品の製造に従事している職人のうち、高度の技術・技法を持ち、その技を後世の代に伝える者として認められたのが伝統工芸士です。

2013（平成25）年11月現在、熊野筆に従事する職人のうち、22名が伝統工芸士に認定されています。

熊野筆の生産状況	
企業数	135社
従事者数	約2,600名
伝統工芸士	22名

（平成25年11月現在）



手作業で穂首づくりをする伝統工芸士  
（熊野町提供）

高度の技術・技法を持ち、その技を後世の代に伝える者として認められたのが伝統工芸士です。

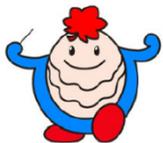
現在、広島県の筆としては、熊野筆、川尻筆が経済産業大臣の指定する伝統的工芸品となっています。

## 2 なぜ、熊野で筆が生産されるようになったのでしょうか？

江戸時代の熊野は、農民の多くが農作業のない時期に、紀伊国（和歌山県）の熊野地方や大和国（奈良県）の吉野地方に出稼ぎへ行きました。その帰りに奈良に立ち寄った農民が筆や墨を仕入れ、諸国に行商をしながら熊野に帰りました。ここから熊野と筆の結び付きができたのです。

熊野の筆づくりは、江戸時代後期に佐々木為次が摂津国（兵庫県）有馬で筆づくりを学んだことに始まります。また、井上治平は広島藩の筆職人吉田清蔵から筆づくりを学び、同じ頃、音丸常太も有馬で筆づくりを学び、村民に筆づくりを伝えたといわれています。

このように、江戸時代後期に特徴的な産業のなかった熊野では、筆づくりを新しい産業として取り入れ、生産が始まったのです。



熊野筆はどのようにして発展し、現在に受け継がれているのでしょうか？

## 3 熊野筆はどのようにして発展し、現在に受け継がれているのでしょうか？

明治になり、1872（明治5）年には学制が公布されて、学校教育に筆が使われるようになりました。熊野筆は1877（明治10）年、東京で開催された内国勸業博覧会で入賞し、注目されました。ここから熊野筆の需要が増え、明治の後期から昭和の初めのころに最盛期を迎えました。

しかし、戦争で出征などにより熊野筆の職人の多くが奪われました。また、戦後、教科としての「習字」が廃止され、毛筆の需要も落ち込みました。これは全国の筆産地でも同様でした。また、戦後の生活様式の変化に伴って、筆の需要が低下した結果、筆づくりは衰えていきました。この困難な時期、熊野では筆づくりの伝統技術を活かして画筆や化粧筆を開発し、次第に盛り返していきます。

1971（昭和46）年、学校教育における「習字」の復活により、再び毛筆の生産量が増加し、現在、熊野筆は日本一の筆の生産量を誇っています。

種類	年	生産量	生産額	全国に占める割合
毛筆	昭和60年12月	3,600万本	65億円	80%
	平成12年12月	3,500万本	45億円	80%
画筆	昭和60年12月	4,000万本	28億円	70%
	平成12年12月	3,500万本	20億円	85%
化粧筆	昭和60年12月	4,800万本	20億円	70%
	平成12年12月	3,500万本	20億円	90%

熊野筆の生産データ（「熊野町商工会75周年記念誌」（2003年））

#### 4 熊野町では、筆のまちとして伝統を受け継ぐため、どのような取組が行われているのでしょうか？

熊野町では、毎年秋分の日に「筆まつり」が開催されています。この祭りは1935（昭和10）年から始まり、町内の榊山神社境内や隣接の熊野中学校を会場として行われています。筆供養、大書の実演、筆おどり、筆みこし、古くから伝わる彼岸船の引き回しなどが行われ、三筆の一人嵯峨天皇をしのび、熊野筆の元祖とされている井上治平、音丸常太、佐々木為次の功勞を感謝する意味がこめられています。



筆まつり（熊野町提供）

1931（昭和6）年から継続される「全国書画展覧会」も毎年開催され、全国の小中学生から数十万点の作品の応募があります。



「大作席書」筆まつり（熊野町提供）

また、2007（平成19）年からは春分の日を「筆の日」と定め、町民が筆を持ち、創作活動に参加するイベントを開催しています。その他にも筆の博物館である筆の里工房や、絵てがみの交流拠点である筆の街交流館「K-JIN」を中心に筆文化の発信に町全体で取り組んでいます。

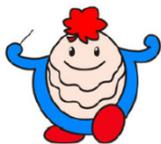
2011（平成23）年、サッカー日本女子代表「なでしこジャパン」が国民栄誉賞を受賞し、その記念品として、熊野町のメーカーで作られた化粧筆が贈呈されました。熊野町の筆づくりに携わる人々は、筆づくりの伝統と技術を守るだけでなく、その良さを生かしながら常に新しい技術の開発に取り組んでいます。近年は、書筆、化粧筆をはじめ、絵てがみ用の筆、アニメ筆など多様な筆が作られています。



筆の里工房（安芸郡熊野町）



なでしこジャパンに贈られたものと同じ化粧筆のセット  
（竹田ブラシ製作所提供）



熊野筆はどのように発展し、現在に受け継がれたのか、調べたことや考えたことをもとに自分の言葉でまとめてみましょう！

### 【もっと調べてみよう！郷土の歴史】

- 筆づくりを行っている工房に実際に行って調べてみよう！
  - ・筆づくりはどのような手順で行われ、どのような技術が必要なのでしょうか。
  - ・新しい用途の筆にはどんなものがあり、どのように開発されたのでしょうか。
- 身近な地域の伝統産業を調べてみよう！
  - ・地域の伝統産業はどのようにして生まれ、現在まで継承されてきたのでしょうか。

#### ◇筆の里工房

住所：安芸郡熊野町中溝 5-17-1 TEL：082 - 855 - 3010 HP

※筆の博物館で、筆の歴史の展示をはじめ、伝統工芸士による筆づくりの実演、筆文化の広がりを紹介する書や絵画などの企画展を開催しています。

#### ◇筆の街交流館K-JIN

住所：安芸郡熊野町出来庭 5-15-6 TEL：082 - 847 - 5709 HP

※平成 22 年 9 月に筆の街の交流拠点としてオープンしました。ギャラリー作品展をはじめ、絵てがみや筆づくり体験も実施しています。

### 【もっと知りたい！郷土の歴史】

#### 広島県の伝統的工芸品

1974（昭和 49）年、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律<sup>しんこう</sup>」が制定されました。この法律により、経済産業大臣に指定された伝統的工芸品の品目数は、全国に 218 点あり、広島県内では次の 5 点が指定されています。

工芸品	主要製造地域	おもな製品	指定年
熊野筆	安芸郡熊野町	毛筆 画筆 化粧筆	1975（昭和 50）年
広島 <sup>びつたん</sup> 壇	広島市，三原市，福山市，府中市，三次市 ほか	金仏壇	1978（昭和 53）年
宮島細工	廿日市市	しゃもじ 彫刻	1982（昭和 57）年
福山 <sup>こよ</sup> 琴	福山市	琴	1985（昭和 60）年
川尻 <sup>かわじり</sup> 筆	呉市	書道用筆	2004（平成 16）年

※平成 25 年 12 月現在

広島県は次の 9 点を伝統的工芸品に指定しています。

- 一國齋<sup>いっこくさい</sup>高盛<sup>たかもり</sup>絵<sup>え</sup>（硯箱<sup>すずり</sup> 飾り盆 茶道具：広島市）
- 銅蟲<sup>どうちゅう</sup>（花瓶<sup>かびん</sup> 飾皿 茶道具 文具：広島市）
- 矢野<sup>やの</sup>かもじ（かつら ヘアピース 医療用ウィッグ：広島市）
- 三次人形（人形：三次市）
- 大竹手打刃物（包丁<sup>かま</sup> 鎌：大竹市）
- 宮島焼（花器 食器 茶器：廿日市市）
- 戸河内<sup>とごうち</sup>剝物<sup>くくりもの</sup>（杓子<sup>しやくし</sup> 茶さじ コーヒースプーン：安芸太田町）
- 戸河内<sup>とごうち</sup>挽物<sup>ひきもの</sup>（すし鉢 茶たく 盆 花立：安芸太田町）
- 備後<sup>びんご</sup>紵<sup>すすり</sup>（着尺地<sup>きじゃくじ</sup> 袋物 暖簾<sup>のれん</sup> テーブルセンター：福山市）



三次人形